

製鉄記念室蘭病院
訪問リハビリテーションセンター
作業療法士



☆
336
☆

千葉 かなみさん



製鉄記念室蘭病院訪問リハビリテーションセンターの作業療法士、千葉かなみさん。「リハビリは楽しい、と感じてもらえるよう、患者さんと一緒に笑って過ごしたい」と話す

ちば・かなみ一父の仕事の都合で18歳まで米国（デトロイト、シカゴ、ダラス）で過ごす。北都保健福祉専門学校（旭川）作業療法学科卒。小樽市内の病院に勤務後、今年4月に製鉄記念室蘭病院に入職。休日は「自宅でのんびりか、理論の勉強、友人らと過ごす」といい、息抜きは「室蘭やきとり」とか。26歳。

「リハビリは楽しい、と感じてもらえるよう、患者さんと一緒に笑って過ごしたい」。患者一人ひとりに生き生きとした生活を取り戻してもらったため、きょうも笑顔で寄り添う。
(松岡秀宜)

患者に笑顔で寄り添う

ハキハキと明るく、親しみやすい笑顔で、心身の機能の回復を目指すおじいちゃん、おばあちゃん世代の患者さんと接する日々、やりがいも感じている。優しさと思いやりを大切にしながらも、「一日一笑」をモットーに、きょうも元気に患者と携わる。

テキサス州の高校に通っていた時、隣接する特別支援学級にいた理学療法士（PT）との出会いが将来の道を決めた。献身的に生徒と接する姿をみて、「こ

ういう仕事もあるんだ。その道を志そう」と決意。帰国後、福祉系専門学校での一日体験入学で、PTよりも、日常生活の動作や作業活動を通して、身体と心のリハビリテーションを行う専門家・作業療法士（OT）が、「よりの、やりたい仕事の内容」。その学校で4年間学んだ。

卒業後は、小樽市内の病院に勤務していたが、「患者さんが生活する場面に赴き、より密接に関係し、患者さんと携わる『訪問リハ

ビリの道に』と考え、訪問リハビリテーションに積極的に取り組む製鉄記念室蘭病院への転職を決めた。新たな道を歩んで半年。「フレンドリーな性格で、作業療法分野の学術的理論（人間作業モデルなど）の勉強会にも積極的に参加しており、向上心も旺盛」（村岡洋平所長）。周囲の評価も高い。